

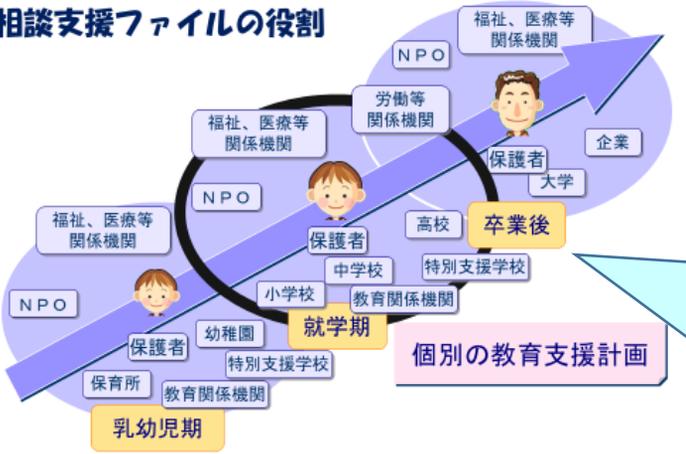


令和7年となりました。今年もあらたな気持ちで校内支援や地域支援に取り組んでいきたいと考えています。今後も地域支援センター「ゆめここ」へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

今回は、「相談支援ファイル」について掲載しました。2月に行われる個別懇談で話題となりますので、再度ご確認ください。

「相談支援ファイル」と「個別の教育支援計画」

相談支援ファイルの役割



「相談支援ファイル」は、お子さんについて就学前から学校卒業後まで、生涯にわたって支援を継続して行うためのものです。

「個別の教育支援計画」は、学校に通っている期間、保護者とともに学校が作成するもので、就学・就労時や進級・進学時の引き継ぎ、就学前から卒業後の関係機関での支援に活用されます。

相談支援ファイルに学校より配布された個別の教育支援計画の資料等を綴じ込むことで、ライフステージが変わった場合や転居した場合でも、同じ支援をスムーズに受けることが可能となります。

「相談支援ファイル」の種類は？

「相談支援ファイル」は、就学前から成人に至るまで保護者の皆さんが使用するものです。お子さんのライフステージが変わる際には、成長の記録や支援状況、指導内容等に関する情報を、幼稚園や保育所、小・中学校、特別支援学校、就業先や福祉事業所などの関係機関でスムーズにつなぎ、一貫した指導、支援ができるようにしていくためのツールです。



相談支援ファイルの名称	市町村名
① そだちのきろく	二本松市、本宮市、大玉村
② 子育てファイル ほっと	三春町
③ 相談支援活用ファイル サポネットファイル	田村市
④ たむら りんくノート	田村市
⑤ 相談支援活用ファイル サポートファイル	小野町
⑥ 郡山市子育てサポートブック	郡山市
⑦ 成長の記録ノート ふたば	川内村（双葉郡共通）

◎ ①～⑦の相談支援ファイルについては、各市町村の障がい福祉課、保健福祉課、教育委員会等の窓口でいただくことができます。ファイルをお持ちでない方は、担任や地域支援センター員にご相談ください。

「相談支援ファイル」はどんな時に活用するの？



4つの場面で活用できます！

家庭での活用

- 入学や卒業等のライフステージが変わるタイミング
- 就学相談の面談、支援会議の参考資料
- 各機関（福祉や学校）で支援計画を作成するとき
- 福祉サービスにつながる時
- 20歳時点で、障害基礎年金の申請の際

学校との連携で活用

- 入学時の引継ぎ資料
- 高等部卒業時の引継ぎ（移行支援計画の補足）
- 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成時の参考資料



福祉事業所等との連携で活用

- サービス利用前の面談（契約）に活用
- 支援計画の作成（モニタリングを含む）に活用
- 学校での様子について、情報共有として活用

行政との連携で活用

- 面談時の参考資料として活用
- 療育手帳の再判定資料として活用
- セルフプラン作成の支援の際に活用

学校や支援機関が作成した指導計画や支援計画、資料など、まずはどんどん挟んでみましょう！

トピックス「自己肯定感の高まり」

自己肯定感とは、自分の価値や存在意義を肯定し尊重できる感覚のことを言います。自己肯定感が高いことによって「自分の存在には価値がある」「自分自身に満足できている」と、自身の評価を上げることができます。また、ただ単に自信満々でポジティブだということではなく、自分の良いところや強み、弱いところを把握していて、そのうえで他人の意見も尊重できるという特徴があります。自己肯定感を高めるためには、どのような関わりをすれば良いのでしょうか。自己肯定感生まれつき決まっているものではなく、環境により変化するそうです。今回のトピックスでは自己肯定感を高めるための5つのコミュニケーションを紹介します。

<p>1. 「聴いてもらう」経験が自己肯定感の基盤</p> <p>子どもの思いを受け止め、理解すること。</p>	<p>4. 効果的な質問で自分と向き合う</p> <p>質問は、あくまで親が聞きたいことを質問するものではありません。<u>子どもが考えるきっかけを与える質問こそが、相手のための質問</u>といえるでしょう。したがって、<u>子どもの質問に対して、評価や診断をする必要はありません。</u></p>
<p>2. 経過承認・存在承認で「I'm OK」に向かう</p> <ul style="list-style-type: none"> 結果承認：子どもの言動、成果に対して褒める。 経過承認：結果までのプロセスを褒める。 存在承認：子どもの存在そのものを認める。 	
<p>3. リフレーミングでポジティブに変換する</p> <p>リフレーミングとは「<u>枠組みを変える</u>」こと。事実は変わらなくても、<u>親がフレーム（枠組み）を変えた視点で子どもに返答</u>することで、<u>子どもの受け取り方や反応、行動が変わってくる。</u></p>	<p>5. ネガティブな自分も受け入れる</p> <p><u>ありのままに無条件で受け入れる</u>ことも大切。誰かから受容された経験は、<u>自分自身を受け入れていく「自己受容」</u>にもつながっていく。</p>

※第一ゼミナール、「子どもの自己肯定感を高める家庭教育とは」、Kikimimi (2024) を参考にしました。具体的な言葉掛けや事例が紹介されていますのでぜひご覧になってください。